

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	若者対象コース		
事業名	「アパレル技術職」就業のための速習コース		
法人名	財団法人 青葉洋裁学院		
学校名	松本衣デザイン専門学校		
代表者	校長 太田 正子	担当者 連絡先	校長 太田正子 TEL 0263-32-4057
1. 事業の目的			
<p>文化先進国はどこもファッション大国であるが、社会的認知が遅れていた日本のアパレル業界も、ようやく国の重要な産業として地位を高めつつある。現在の経済状況のもとアパレル企業も求人状況は同様に厳しいが、しかし適格な人材は求められている。</p> <p>専門学校の人材、設備、並びにカリキュラム等今まで培ったソフト財を活かして、若者の早期離職者・フリーター及びニートを対象に、業界の人材需要に対応できるアパレル技術職就業能力の向上に資する講座の提供を行う。技術・知識の習得に加えキャリアサポーター、教育カウンセラーとの連携を密にし、就業への心構えを育成する。当校は地域の企業と密着した研修の一方、東京や世界の業界情報まで視野に入れた教育を行っており、充実した個別就職指導と業界の情報を基に、地域企業だけでなく、東京の先端企業への就職率の高さを維持している。アパレル（ファッション）業界には一見華やかなイメージがあるが、モノ作りの企画・製造現場から流通、販売と多種多様な職種・内容があることを若者が理解することにより、就業と安易な就業による早期離職防止につながる。この講座は「学び直し」の機会を提供し、アパレル業界の実践的な技術、知識、情報を習得し、幅広い職種への認識を深めることにより、若者の再就職支援に寄与できると考える。</p> <p>講座開設に当たり、受講者満足度80%、受講者の就職率50%を目標設定し、講師、カウンセラーと教育プログラムを実施する。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>アパレル技術について幅広い実践的な教育カリキュラムを構成した。地域企業でも増えている海外との取引等にも対応できるよう専門用語の英語教育も行った。3ヶ月という短期間に技術実習、座学など多彩な内容を網羅しているので、その対応としてオリジナルテキストを開発・活用した。また地域企業の研修や社会現場で活躍している特別講師の講義などを組み込み、現在のアパレル企業の実態を把握し、具体的な就業支援を目指した。少人数教育のメリットを生かし、カウンセリングやキャリアサポートを通して個別に就業に対する方向付け・意欲醸成を行った。講座最終週に実施委員・各講師・正規課程生を前に受講生出席者11人全員がプレゼンテーションを行った。</p>			
<p>●開設講座数 : ファッションビジネス就業のための速習講座</p> <p>●総授業時間数 : 229時間</p>			

●開設期間 : 9月15日～12月18日

(内訳)

<専門分野>

・アパレル製造① (パターンメイキング、パターンナー職を学ぶ)	55時間
・アパレル製造② (量産のためのサンプル縫製技術を学ぶ)	28時間
・アパレル製造概論 (アパレル産業の仕事の流れを学ぶ)	27時間
・ファッションビジネス概論 (ファッションビジネス全体の理解)	28時間
・ファッションビジネス特別講義 (ファッションビジネスの最新情報)	14時間
・販売ロールプレイング	4時間
・販売ロールプレイング (英語)	4時間
・ファッションビジネス英語 (英語とファッション用語の正しい理解)	15時間
・企業研修 (2社の企業現場の体験)	7時間

<支援講座>

・キャリアカウンセリング	8時間
・キャリアサポート (自己発見と対人関係スキル)	11時間
・キャリアサポート (特別講師によるアパレル業界への就職サポート)	14時間
・就職オリエンテーション (就職サポート)	14時間

②受講者の募集方法 (手法・期間・効果)

受講生募集に当たっては、効果の期待できる媒体と手法で応募状況に応じ下記の方法を用いて行った。

1. 新聞広告 (7月11日、17日の2紙に掲載)
2. タウン誌への募集広告 (8月7日 発行分)
3. ハローワーク、ジョブカフェ、大学就職サポート課、対象顧客が合致する店舗等へのチラシ配布 (7月7日～8月31日)
4. 過去の問合せなどの当校登録者のうち対象年齢者へダイレクトメールでチラシ送付
5. 大学生周辺居住区でポスティング、大学周辺でハンディング
6. 当校ホームページに掲載

申込者計20人のアンケートや問合せで効果を調査した。

新聞・タウン誌広告、記事掲載で7人、ダイレクトメールで7人、配布チラシ等で6人であった。ホームページからの申込・問合せも多く、大学生対象のポスティング、ハンディングも反響・問合せが数件あった。

開講前8月30日に講座説明会を開催し、申込者に講座内容説明と受講確認をした。

応募状況は定員15人のところ、講座開始時までには18人の応募があった。先着申込順で締切る予定だったが、面談のうえ、受講意欲が高いので全員受講対象者とした。開始後も受講する必要性の高い2人を9月末に追加受講者とし、結果20人となった。

③受講者の状況

受講者20人の内訳は下記のとおりである。

男性 8 人、女性 12 人

年齢層は 10 代女性 3 人/20 代男性 6 人・女性 3 人/30 代男性 2 人・女性 6 人

受講開始時点での就業状況は下記のとおりである。

学生 2 人/無職 9 人/正規職員 3 人/アルバイト・派遣等 6 人

正規職員も会社状況などにより転職を考えての受講であった。

最終学歴に関しては、下記のとおりである。

大学(外国含む)卒 8 人/大学中退 2 人/短大卒 2 人/専門学校卒 2 人/高校卒 3 人/短大・高
校在学中 2 人/不明 1 人

④受講者の意識調査等

アンケートは講義最終週に実施し、講座全体につき項目別に詳細に調査した。

主な項目の受講満足度は下記のとおりであり、全体として高い評価を得た。

(回収数は 10 であった。)

- ・カリキュラム 大変満足：3 人(30%) 満足：6 人(60%) 普通：1 人(10%)
- ・テキスト 大変満足：8 人(80%) 満足：2 人(20%)
- ・講義内容及び講師(平均) 大変満足：8 人(80%) 満足：2 人(20%)
- ・就業支援 大変満足：8 人(80%) 満足：2 人(20%)
- ・講座全体 大変満足：9 人(90%) 満足：1 人(10%)

アンケートのコメントが多かったので特筆したいのは、就業意欲に関しての下記である。

- ・視野を広げられ、就業の職種の可能性が増えた。
- ・自分を見つめ直すよいキッカケとなり、やりたいこと、目標、方向性がはっきりした。
- ・前向き、行動的になり、頑張ろうという気持ちになった。

⑤受講後の状況(修了者数・就職率)

受講者 20 人中、13 人が学校規定に達したので、修了証を交付した。

講座期間中に出席しなくなった受講者(未修了者)は、就職を理由に 3 人、学業、仕事が忙しいを理由に 3 人、不明 1 人である。

修了者のうち、学生・病気・家庭的事情等のため就職活動を中断している者 5 人を除き、3 人(正規職員 1 人・契約社員 2 人)が希望の企業に転職・就職し、現在 5 人が就職活動中である。

3. 事業の評価に関する項目

①当初目的の達成状況

3ヶ月という短期間だが、技術実習、座学、企業の研修、特別講師講義、キャリアサポートなど多彩な内容の実践的な教育プログラムを行った。

当初目標設定の、受講者満足度 80%は全ての項目で達成した。開発したテキストも高評価を受けた。

また受講者の就職率 50%目標に関しては未だ届かないが、講座前に比較して、就業意欲、積極性を高める目的は達成できた。講座終了後もメール等のフォローアップを行い、希望者に就職相談・カウンセリングを実施している。

②事業の成果及び改善点

1. フリーター等に対するアパレル技術の教育カリキュラムの完成
2. Uターン若者の早期離職者・フリーター及びニートの問題点の把握

短期間のため、繁忙な企業の協力が当初の予定より得られず、特に販売職種について企業と受講生との調整が難しく、インターンシップが計画通り行えなかったのは、残念であるが、製造企業での企業研修、通常なかなか直接受けられない特別講師の講義などで一定の成果を得た。

③次年度以降における課題・展開

アパレル技術についての実践的教育プログラムの開発は、一応の完成を見た。次年度はこれらの成果を、フリーター等を対象とした講座の開設に活かせる。インターンシップについては早期・長期間の準備・調整が必要であることを今後活かしたい。また講師も成果を共有できたため、修得したノウハウを今後の授業に活かすよう正規課程のプログラムについても見直しを図ることを計画している。

④成果の普及

1月30日当校において、成果報告会を開催し、事業の実施内容、成果、開発したテキスト等を報告した。

出席者：文部科学省担当者、長野県専修学校各種学校連合会会長、地域協力企業経営者、実施委員、講師。

なお、本事業のために開設したHPにおいても成果を普及している。

HPのURは下記のとおりとなっている。

<http://www.i-design.ac.jp>